

2030 (J-GBF) 生物多様性 枠組実現日本会議



ネイチャーポジティブ宣言と JEEF の取り組み

JEEF は 2023 年度より「2030 生物多様性枠組実現日本会議 (以下: J-GBF)」の委員に就任しました。ここでは、2030 生物多様性枠組実現日本会議の取組や、ネイチャーポジティブ宣言、JEEF のこれからの動きについて紹介します。

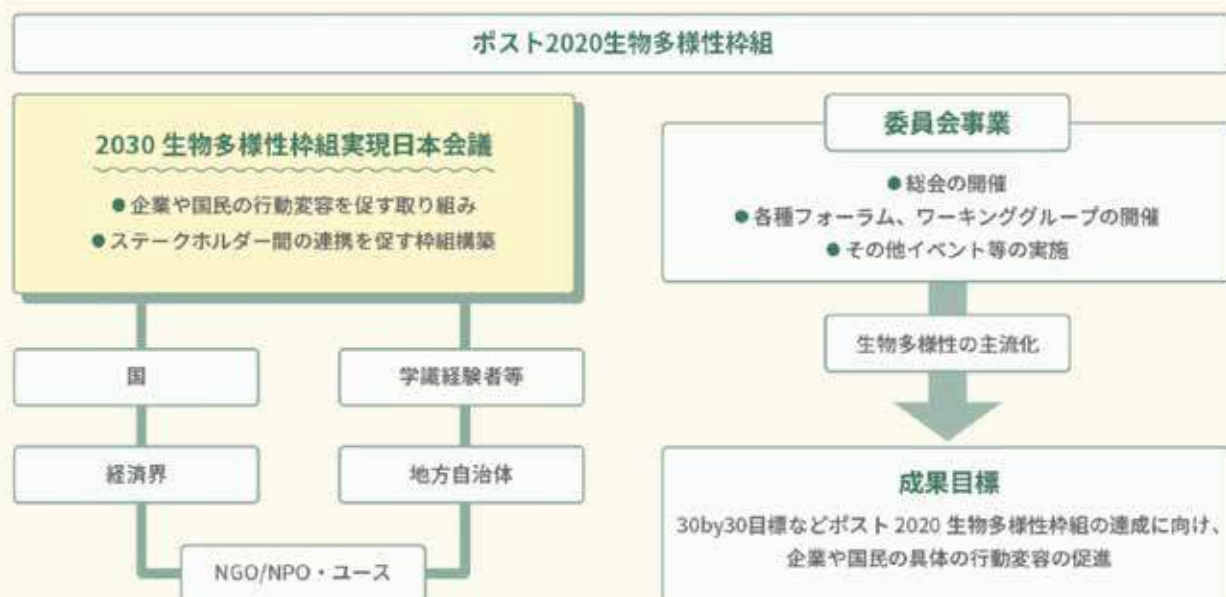
J-GBFとは

J-GBF (※) は、2011 年から 2020 年まで生物多様性の問題に取り組んできた「国連生物多様性の 10 年日本委員会 (UNDB-J)」の後継組織として、2021 年 11 月に設立されました。J-GBF では、「ポスト 2020 生物多様性枠組」などの次期国際目標・国内戦略の達成に向けて、企業や国民に具体的な行動変容を促す取り組みの強化および様々なステークホルダー間の連携を促すための枠組構築を図るため、総会や各種フォーラム、イベント等の開催や、普及啓発ツールの紹介等を行っています。

ネイチャーポジティブ宣言の呼びかけ

「ネイチャーポジティブ」とは、生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せることを意味します。2030 年までに「ネイチャーポジティブ」を実現することが、2050 年ビジョンの達成に向け

※ 2030 生物多様性枠組実現日本会議
Japan Conference for 2030 Global Biodiversity Framework



出展：環境省

イメージキャラクター

「だいだらポジー」

環境省では、国民一人一人が、ネイチャーポジティブに寄与する消費選択をできる経済社会づくりの推進のため、ネイチャーポジティブのイメージキャラクターとその愛称を募集しました。その結果、「だいだらポジー (DAIDARAPOSIE)」がイメージキャラクターとして決定しました。日本各地で山や湖、川を作ったとして伝承されている巨人「だいだらぼっち」がモチーフで、地球のポジティブな未来を抱きしめて見守り続けるキャラクターとして制作されました。



た短期目標です。
「2030年ネイチャーポジティブ」の実現に向けて、人類存続の基盤としての健全な生態系を確保し、生態系による恵みを維持し回復させ、自然資本を守り活かす社会経済活動を広げるために、これまでの生物多様性保全施策に加えて、気候変動や資源循環等の様々な分野の施策と連携し取り組むことが求められます。
ネイチャーポジティブ宣言とは、ネイチャーポジティブの実現に向けた第一歩として、ステークホルダーの皆さまの活動を表明していただく宣言です。ネイチャーポジティブの実現には多様なス

テークホルダーの実践・協力・協業が必要で、ステークホルダーの皆さまに、それぞれの想いを載せた宣言をしていただくことで、さらに一歩前進することを目指しています。JEEF会員の皆さまも本宣言に賛同いただくとともに、登録をお願いいたします。



ネイチャーポジティブ宣言への登録方法

「ネイチャーポジティブ宣言ポータルサイト」より、「ネイチャーポジティブ宣言フォーム」に記入、送信してください。
登録された各団体の「ネイチャーポジティブ宣言」は、データベース化し、ポータルサイトに掲載されます。



JEEFのこれからの動き

JEEFでは今後、JGBFネイチャーポジティブ行動計画の中の「行動目標4・2日常的に自然とふれあう機会を提供することで、自然の恩恵や自然と人との関わりなど様々な知識の習得

や関心の醸成、人としての豊かな成長を図るとともに、人と動物の適切な関係についての考え方を普及させる」ことに対して、「人と自然、人と人、人と社会」のつながりの再構築を目指した自然体験活動を軸とした環境教育プログラムの開発及び実施を、日本全国・海外の会員の皆さまと進めていきます。

また、今年の清里ミーティングのテーマを「これからの日本型環境教育の提案〜2030ネイチャーポジティブ〜」と設定したことを皮切りに、生物多様性×環境教育について学ぶ機会や場を創出しています。

生物多様性の喪失や気候危機に代表されるように、環境問題は現在進行形で悪化しています。我々が暮らす地球の限界は既に超えており、解決に向けて残された時間も限られています。これらの問題の解決に向けては「行動変容」を促すことが大切です。JEEFはこれからも、得意とする「体験と対話を重視した環境教育」によって、ネイチャーポジティブの達成に貢献していきます。

文：加藤超大 (JEEF)